日本大使館員及びJICA職員との夕食（Dinner with staff from Embassy of Japan and JICA）

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	川田一徳　公使参事官 中野美智子　一等書記官 立尾諭世　青年海外協力隊隊員
コメント	IV-JAPANの卒業生が働く日本料理店「Otafuku」で、日本国大使館員と青年海外協力隊で日本語教師をされている立尾氏と会食をした。現地での仕事、ラオスでの生活など幅広く話を聞くことができ、非常に充実した時間を過ごした。

9月21日

特定非営利活動法人国際協力NGO・IV-JAPAN（International Cooperation NGO・IV-Japan）

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	冨永幸子　代表 大滝美佳氏
コメント	IV-JAPANはラオスで長年活動している日本のNGO団体で、調理、縫製、理美容の職業訓練を行っている。活動内容の説明を受けた後、実際の職業訓練の様子を見学した。IV-JAPANのレストランで昼食も取り、訓練生が実際に働く様子を間近で見ることができた。多くの卒業生がこのIV-JAPANでの職業訓練のおかげで手に職をつけ、自立して働いているそうだ。

UXO LAO訓練センター／認定特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会（UXO LAO Training Center/Japan Mine Action Service; JMAS）

訪問先都市	ビエンチャン
面会者	Ms. Yue Yamagishi, Chief of Administration and Planning Mr. Nouphin Phimmasy, Programme Officer of UXO LAO 濱岸佑恵氏 君川恒治氏
コメント	日本地雷処理を支援する会は自衛官経験者を核として、ラオスの地雷処理、不発弾処理に携わる日本のNGOである。元自衛官の指導の下で爆弾をカットする訓練作業を見学したことは、とても貴重な体験であった。ベトナム戦争での空爆の被害が大きく国土の約3分の1が不発弾汚染地域となっているラオスでは継続的な支援が必要である。自衛官退官後にラオスのために命がけで作業している方々の様子を見て、同じ日本人として彼らの活躍を誇りに思った。

9月24日

日本招へいラオス青年とのバーシーセレモニー（Baci ceremony with Lao youth to be invited to Japan）

訪問先都市	ビエンチャン
コメント	結婚・出産などの人生の節目となる特別な行事、病気の祈祷、出会いや別れの際に行われるラオスの伝統行事。正式な名称はバーシー・スー・クワン。クワンとは魂のことで、人間には32のクワンが宿っているとされている。これらのクワンが体から出ないよう、また既に出ていってしまったクワンを取り戻すための儀式である。バナナの葉で編んだ円形状の芯に、白い糸の束を結んだ竹串や花などをさした「パークワン」と呼ばれる祭壇を囲み行われる。祈祷師がお経を唱え終わった後、主役の手首に個々人への願いと共に白い糸が結ばれる。通常これは最低でも3日ほどは付けておく。ラオス青年たちと事業関係者の方々と共に厳粛な雰囲気のもと行われ、互いに日本への旅路の安全や健康、プログラムの成功等の言葉をかけあった。祈りの言葉と共に結ばれた白い糸は人と人とのつながりを可視化させ、手首を見るたびラオスで出会ったたくさんの人を思い出すことができた。

文化交流プログラム、歓送夕食会（Cultural exchange program, Farewell dinner）

訪問先都市	ビエンチャン
面　会　者	Alounxai Sounnalath, Deputy Secretary General Leokham Inthavong, Deputy Derector of North East and Africa Department
コ メ ン ト	国の花チャンパーをモチーフにしたダンス、ラオスの伝統楽器であるケーンを用いたダンスなどラオス青年による様々なパフォーマンスを楽しんだ。日本のパフォーマンスとして、合唱曲「旅立ちの日に」及びソーラン節を披露した。その後、参加者全員でラオスのステップダンスを一緒になって踊り、会場は盛り上がった。ラオスの伝統に触れることができたと同時に、日本の文化を発信する良い機会となった。

9月25日

日本招へいラオス青年との交流（Interaction with Lao youth to be invited to Japan）

訪問先都市	ビエンチャン
コ メ ン ト	日本招へいラオス青年とタラートサオモールのフードコートで昼食をとった後、モール内を散策した。ラオス最後の食事、ラオス青年との何気ない会話を楽しんだ。

タラートサオモール（Talatsao Mall）

訪問先都市	ビエンチャン
コ メ ン ト	ビエンチャン中心部に位置し、ラオス最大級のマーケットであるタラートサオに隣接している大型商業施設。日本招へいラオス青年とフードコートで昼食をとった後、ショッピングを楽しんだ。マーケットでは生活、モールでは近代化を感じたことでラオスの現在を垣間見た。

国立博物館（National Museum）

訪問先都市	ビエンチャン
コ メ ン ト	国立博物館は1925年にフランス植民地政府によって建てられた。1945年の独立宣言の際にもこの博物館が使用され、何度かの増築を経て、政府の本部、ルアンパバーン王の宿泊施設、首相官邸、複数省の本部など、様々な目的で使用されてきた。1975年に現政府が発足した後は、1980年にラオス革命展示ホールとなり、1985年にはラオス革命博物館に格上げされたが、2000年代初頭に新たにラオス国立博物館として発足した。ラオス全土から集められた収蔵品は現在およそ8,000点にものぼり、古生物学、考古学、歴史学、民族学など多岐にわたっている。来日するラオス青年と共にMr. Kham Phef氏の説明を聞きながら館内を視察した。1階には、先史時代、古代のラオスについての出土品が展示してあり、古代文明の出土品を見ながらその時代の人々の生活をイメージすることができた。2階には、ランサーン王国時代から植民地時代、独立へと向かうラオスの歴史を知るうえで重要な出土物、写真、絵画が多く展示してあり、ラオスの歴史の理解をより一層深めることができた。